## 令和6年度学校経営計画に対する最終報告書

					石川県立羽咋工業高等学校
重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果		<b>課題</b> )及び後期の扱い(改善策等)
1 【授業改善】 生徒が主体的に 取り組むよう、し、 ICT機器を効果しい に活動がないまする に活動がないませい。 、基礎がより、 もの定着力、判断が、 表現力、おいコミュニケーの 力の育成を図る。	積極的に主体的・対話的で深い学びの授業を実践し、生徒の 資質・能力の育成を図る。	主体的・対話的で深い学びの授業の実践により、授業担当 生徒の7割以上が、各教科の特性に応じた資質・能力が確 実に向上していると回答する教員の割合が A 80%以上 B 60%~80%未満 C 40%~60%未満 D 40%未満		定基準の80%を大きく上回る高い結 ケートでも、「学力・技術・技能等が 当てはまる」と回答した生徒が98% 実感している結果となった。	度向上させている」を合わせた評価は97%となり、判果となった。同時期に実施した生徒対象の授業評価アン (主) (ま) (ま) (ま) (ま) (ま) (ま) (ま) (ま) (ま) (ま
		主体的に取り組む授業形態により、意欲的に参加していると回答する生徒の割合が A 80%以上 B 60%~80%未満 C 40%~60%未満 D 40%未満	生徒対象に 12月にアンケート調査 95% 評価 A	り、7月 (97%) 同様に高い結果とな の学習に積極的に取り組むことができ にのぼっている。	る」を合わせた評価は95%と判定基準の80%を上回された。同時期に実施した学習状況アンケートでも、「日々た」に「よくできた」「できた」と回答した生徒が95%的に取り組み、学力向上につながるような働きかけを継
		授業によって思考力、判断力、表現力、およびコミュニケーション力が向上したと回答する生徒の割合が A 80%以上 B 60%~80%未満 C 40%~60%未満 D 40%未満	生徒対象に 12月にアンケート調査 96% 評価 A	り、7月(94%)同様に高い結果とれ 分の意見を述べることにより学習内容 98%にのぼっている。自分の思考を の理解を深める相乗効果を生みだして	る」を合わせた評価は96%と判定基準の80%を上回なった。同時期に実施した学習状況アンケートでも、「自が深まった」に「あてはまる」と回答した生徒が言語化し、相手に伝わる表現を考えることが学習内容へいる。間を確保し、更なる向上につながる授業を全教員が実践
2 【進路実現】 ① ものづくりやキャリア教育について学び、工業の技術・技能を習得し、資格や検定・コ積極的に取り組起すことを通じて、個々の生徒に応じた進路の実現を目指す。	に有益な情報を提供して進路 相談を充実させる。同時に、学 年と協力して、生徒が主体的に 進路を考える機会を増やし、キ ャリア教育を強化し、進路意識 を向上させる。	B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	10月末における 内定率を検証 100% 評価 A	達成した。生徒の意欲的な就職活動に 導の改善が成果を生んだ。また、ホー の意識向上に寄与したと思われる。 今後も生徒の発達段階に応じた適切 しっかりと伝わるよう努めたい。	8名全員が一度で就職内定を獲得し、内定率100%を加え、自己分析の指導、企業との連携強化など、進路指ムページやメール配信を通じた情報提供が生徒・保護者な進路指導を実施し、生徒の進路意識の向上が保護者に
	ジュニアマイスター顕彰の ゴールド特別表彰およびゴー ルド・シルバー・ブロンズの取 得を目指し、学校全体で多くの 資格・検定への挑戦意識を高め るため、ICT機器を活用した積 極的な取組を行うことによっ て、認定者数を増加させる。	A 40人以上 B 30人~39人 C 20人~29人	後期(1月31日現在)の 認定者数を検証 年間認定者数 53人 (前期18人、後期35人) 評価 A	取得者が12人、シルバー取得者が2 年以上に多くの生徒が技能検定を受検った。 昨年度初め、学校として資格取得の	16人)で、その内訳はゴールド特別が2人、ゴールド6人、ブロンズ取得者が13人であった。今年度は、例したため、その合格による加点が認定者数の増加に繋が支援体制を改善した効果が、現2年生に顕著に現れておる機運が生徒の間で一層高まるよう、より組織的に資格
学校関係者評価委員会の評価		○時代の流れでクロームブックを使用して授業を行っているが、書くことが少なくなることで学力の低下はあるか。 ○ジュニアマイスター53名は素晴らしいが逆に資格を取得しない生徒はいるのか。その理由はなにか。			
学校関係者評価委員会の評価を 踏まえた今後の改善策		○書くことを重視する取組もしているが、黒板を書き写す作業が少なくなってきているのが現状である。知識ばかりに偏らず思考力・判断力・コミュニケーション力を伸ばし、授業の効率化、学力の向上に取り組みたい。 ○ジュニアマイスターの表彰を受けていない生徒は0点という訳ではない。部活動等で受験できない生徒もいる。20点には届かないものの、15、16点の得点者は多いため、より組織的に資格取得を促進できる体制の整備に努めたい。			

重点目標	具体的取組	達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)	
「部活動や生徒会 活動の活性化」、「 規範意識を高め、 いじめを見逃さな い学校づくり」「	会執行部が生徒にアンケートを行い、全校生徒が主体的に計画や立案に参加することで、行事への参画意識を高める。	A 95%以上	生徒対象に 12月にアンケート調査 99% 評価 A	「大変満足している」・「おおむね満足している」を合わせた評価は99%とA判定基準の95%を上回り、非常に高い数値となった。今年は例年以上に生徒会を中心に学校行事を運営し、生徒が学校行事に自主的に参加した結果だと考えられる。 後期も多くの行事が予定されており、引き続き生徒がより満足して行事に参加できるよう行事運営を生徒会執行部と共に工夫していきたい。	
ボランティアや地域貢献」等を通じて人間力を積極的に育成する。	② 運動部・文化部の重複加入を 奨励し、各自の目標 童成に向け 真剣に取り組むことで、心身ともに成長を実感できる。		部加入生徒対象に 12月にアンケート調査 91% 評価 B	「十分実感している」・「おおむね実感している」を合わせた評価は91%となり、前期の89%から2ポイント上昇した。ただし、昨年度は95%とA判断基準を満たしているため、昨年度からは4ポイント悪化した。前期の結果を踏まえて各部活動顧問の先生方にチームの目標や個人の目標等の設定を依頼し、後期の改善には見られたものの、昨年度より数値が低いため、引き続き部活顧問から目標の設定を促し、部活動の活性化に取り組んでいきたい。	
			生徒対象に 12月にアンケート調査 94% 評価 A	「十分できている」・「ある程度できている」を合わせた評価は94%と、A判定基準の90%を上回った。「朝の挨拶運動」や部活動、授業などで先生方が挨拶の重要性の指導を行ったことが高い数値につながったと考えられる。 次年度も引き続き挨拶の指導を継続し、生徒の挨拶に対する意識も向上するよう働きかけていきたい。	
				「十分身に付いた」・「ある程度身に付いた」を合わせた評価は100%と、前年度同期(99%)と同様に高い結果となった。「朝の挨拶運動」や「規範意識週間」等の取組に加えて、「身だしなみに関しての学年集会」や「校内におけるスマートフォン(携帯電話)の使用禁止」等の指導をこまめに行うことによって、生徒の規範意識やいじめ防止の意識が高まったものと考えられる。 次年度も引き続き取組を継続し、生徒の行動が変容するよう工夫していきたい。	
本校の諸活動や工業の魅力・楽しさを保護者や地域に発信し理解を得るとともに、特に中学生への積極的な	事に対し、メール配信や羽工便り、ホームページ等の既存の手段に加え、新たなアイディアや工夫を取り入れ、保護者の来校者数を増加させる。	A 70%以上		1回以上来校した保護者の割合は68%であり、評価はBとなった。特に、10月に開催した羽工祭においては、、模擬店に加え、外部よりアーティストを招聘し、ライブ演奏を企画するなど、気軽に学校の様子を見て頂ける環境をつくったことが今回の数値に表れている。また、10月の校内マラソン大会や11月の学校公開においては、保護者の案内を早めに行うことにより、生徒の活動を身近に感じられる機会を提供するように努めた。次年度以降も、既存の行事に関しては早めに連絡や告知をすることによって、学校の活動の理解をさらに深める一助となることを目指したい。	
情報発信を通じて、志望者数の増加を図る。	② 本校の活動を広く知っても らうために、在学生やその保護 者、中学生、地域の方にホーム ページで発信し、積極的に見て もらう工夫により、その閲覧数 を増やす。	B 26,000件~30,000件未満 C 22,000件~26,000件未満	8月~12月の閲覧回数 各月30,000件以上 評価A	閲覧回数は毎月30,000件以上となり、評価はAである。今年度は先生方の協力もあり、更新回数も多く、昨年度よりも充実した情報発信ができている。部活動や行事以外にも、資格取得のための放課後補習など、生徒らの頑張っている姿を早く伝えることや写真だけでなく動画で生徒の様子を積極的に発信した成果であると考えられる。 次年度も引き続き取組を継続し、魅力あふれるホームページになるよう工夫していきたい。	
5【働き方改革】 教職員相互の業務 点検による平準化 で業務を分担する とともに、協力体 制を構築し、更な る働き方改革を推 進する。	① 校務分掌ごとに業務内容を 点検して改善に努めるととも に、ICTを活用し情報伝達の スピード化と共有化を高める ことで協力体制を構築して組 織的な業務の平準化を進める。	A 70%以上	教員対象に 12月にアンケート調査 86% 評価 A	「十分に取り組み進んでいる」・「ある程度取り組み進んでいる」と答えた教職員の割合が、 判定基準の70%を大きく上回る結果となった。これは、教職員一人一人が日常業務の重複を 意識することによって学校全体で働き方改革に取り組んだ成果であると考えられる。 学校の根付いた慣習に手を加え、削減することは正解が見えない難しい課題であるが、業務 を1つ1つ点検し、効率化を目指すことで、教職員間の会話が増え、生徒の活動にも良い影響 が期待される。 次年度も「当たり前のことを当たり前」と思わずに1つ1つの書類や業務を確認しながら、 他の分掌との重複がないか注意を払い、引き続き取り組みを進めていきたい。	
学校関係者評価委員会の評価		○部活動の目標・  一部活動の目標・  一部には、自分が生徒だと親に学校に来てほしくない。自分の子供が学校に来てほしくないと言われる風潮のなかで、  一部活動の目標・  一部活動の目標・  一部活動の目標・  一部活動の目標・  一部には、自分が生徒だと親に学校に来てほしくない。自分の子供が学校に来てほしくないと言われる風潮のなかで、  一部活動の目標・  一部活動の目標・  一部活動の目標・  一部により、  一部に			
学校関係者評価委員会の評価を 踏まえた今後の改善策		<ul><li>○ボランティア活動は総体、新人大会の期間中に釜屋海岸清掃を行っている。地域貢献については、生徒にアンケートを実施したものの、具体的な取り組みはまだ決まっていないため、来年度に向けて検討したい。9%の生徒の意見は聞いていないが文化部やマネージャーの生徒の割合も年々増えており目標が設定しにくい状況になっている。また部活を休む生徒も増えており、引き続き部活動の活性化に取り組んでいきたい。</li><li>○工業の授業を見たいという保護者の声が多いため、授業参観では工業の専門授業を取り入れている。今後も保護者が気軽に学校の様子を見られる環境づくりに努めていきたい。</li></ul>			